

24 保育の実践、運動、研究、経営にかかわってきた五〇年

早瀬 眞喜子（社会福祉法人たんぼ福祉会理事長）



地域に根ざした保育所をめざして……………◆

私は一九七〇年、大阪府枚方市ひらたの公立保育所（禁野保育所）に保育士として入職、その後五一歳で早期退職し、リカレント教育として立命館大学、大学院で学び、保育者養成の大学で研究職として勤務後、現在はたんぼ福祉会の理事長です。約五〇年あまり保育の実践、運動、研究、経営にかかわっています。

私の経歴のなかで、保育者としての保育実践だけではなく、労働組合運動が大きな位置を占めています。二七歳で枚方市職労保育所支部執行委員長となり、保育実践と組合活動の両立に悩みながら、一九八九年、階級的ナショナルセンター結成のとき、労働組合運動

の専従者として、保育現場から離れて約五年間活動しました。大阪から東京に一人赴任し、全国の仲間とともに自治体労働組合運動、とくに公立保育労働者の運動にかかわってきました。

当時の活動として『私は保母』（一九九〇年、ひとなる書房）、全国一〇万家庭の地域調査をまとめた『日本の子育て——このままではほうっておけない』（一九九二年、ひとなる書房）を自治労連保育部会として出版。国や自治体が子育て支援を提起する前の一九八〇年代から、「地域に根ざした（開かれた）保育所」を組合が中心となり展開してきました。

現場と研究、両方での学びと経験をもって……………◆

な役割を果たしています。

国の政策に対抗する政策提起、
民主的経営の実践をみながら……………◆

枚方市の公立保育所の民営化が進むなか、二〇二二年に枚方市立桜丘北保育所の民営化の受託に応募し、三人の応募のなか、本法人が高得点（七〇〇点中六三四点）で受託しました。これは、本法人の保育実践が審議委員会でも高く評価をされたということです。全国的に公立保育所の民営化がすすみ、公的責任が縮小、新自由主義による育児の産業化が進められているなか、運動の拠点となる民主園が多く必要だと考えます。

とくに、昨年度は子どもの通園バスへの置き去りや虐待問題が報道されるなか、マスコミでも保育問題が大きく取り上げられ、子どもの権利と働く者の権利が守られる運動の強化・発展が求められます。

私の全国役員経験からも、国の政策に対決する政策提起、民主的経営としての社会福祉経営全国会議の役割は重要です。民主的な社会福祉施設としての経営・運営や関連団体との連携など、社会的影響力が果たせるよう模索しています。

その後、保育現場にもどり五一歳で早期退職、大学・大学院で学びます。そのとき、学外で社会学者の飯田哲也氏の私塾「京都船岡塾」に参加し、総合社会福祉研究所の石倉理事長や、事務局におられる高倉さんたちとも学び、保育を国民的課題として社会学の立場から捉える『保育の社会学——子どもとおとなのアンサンプル』（二〇一四年）を出版しました。こうした出会いと学びをおして、私の社会のとらえ方や世界観は大きく変化しました。

二〇〇八年からは保育者養成の教員として、学生を保育現場に送る仕事を十数年おこない、民主園での学生の実習やアルバイトなどのかかわりは、現場と大学をつなぐ貴重なものになりました。

民主園とのかかわりから、枚方たんぼ保育園の保育士の研修活動等や法人の理事をするようになり、法人四〇周年の二〇一九年に理事長になりました。枚方たんぼ保育園は、私が入職した枚方市立禁野保育所から徒歩一〇分圏内にあり、同園の建設運動には私も組合の役員としてかかわった経験があり身近な存在でした。本法人は「みんなの力でたんぼを」というスローガンのもと、枚方市、四条畷市、大東市に四園をもつ法人となり、保育実践、運動と地域のなかで大き